

タリタ、クム

マルコによる福音 5:21-43

(そのとき、) イエスが舟に乗って再び向こう岸に渡られると、大勢の群衆がそばに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。会堂長の一人でヤイロという名の人に来て、イエスを見ると足もとにひれ伏して、しきりに願った。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」そこで、イエスはヤイロと一緒に出かけに行かれた。

大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来た。

さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。」

イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人々が来て言った。

「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょ

う。」イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい」と会堂長に言われた。そして、ペトロ、ヤコブ、またヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれもついて来ることをお許しにならなかった。一行は会堂長の家に着いた。イエスは人々が大声で泣きわめいて騒いでいるのを見て、家の中に入り、人々に言われた。「なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。」人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子供の両親と三人の弟子だけを連れて、子供のいる所へ入って行かれた。そして、子供の手を取って、「タリタ、クム」と言われた。これは、「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」という意味である。少女はすぐに起き上がって、歩きだした。もう十二歳になっていたからである。それを見るや、人々は驚きのあまり我を忘れた。イエスはこのことをだれにも知らせないようにと厳しく命じ、また、食べ物を少女に与えるようにと言われた。

説教

きょうの朗読は2つのはなしがありました。「出血の止まらない女」の病氣治しとヤイロの娘の蘇り、生き返りのはなしです。この二つのはなしは「信じる」という点で共通のはなしです。

イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病氣にかからず、元気に暮らしなさい。」イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう。」イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい」と会堂長に言われた。5:34-36

イエスを信じる、キリスト教信者ならみんなイエス・キリストを信じています。信者じゃなくても信じている人もいるでしょうから、信じていなくても

信者の人もいるかもしれませんが。（いやみではなくて、実際のところいてもいいかなと
思っています）

ところで、見て信じる、見ずに信じる、という点にイエスが言及した聖書箇所があります。ヨハネ福音書の20章のトマスのエピソードです。復活のイエスが弟子たちが集まっていた部屋にあらわれたときそこにいなかったトマスが手に釘跡を見るまでは信じないといって、一週間後にまた復活イエスが現れ、そこでイエスを見たトマスが復活を信じたという話でした。

きょうの「信じる」では見て信じるのか、見ずに信じるのかということはテーマにはなっていません。長血の女は見る見ないどころではなく、実際に病気が治ったのですから問答無用で信じているはずです。会堂長ヤイロも、またその娘も同じように信じているはずです。ではそれを目撃した人はどうか、目撃しなかった人はどうか。直接自分が見聞きしていなくてもこのうわさを聞いた当時の人たちは目撃者ではなくても、たいていの人は信じたことだと思います。いまのわたしたちは当たり前ですが直接見聞きすることはできません。信じるか信じないかを自分自身のところに問いかけるという作業が必要になります。

さて、長血の女ですが彼女は群集にまぎれて後ろからイエスに触れた、イエスの服に触れた。そうしたところすぐに出血が止まり治った、病気がいやされたと書いてあります。うしろからこっそりイエスに触れた、これを卑怯じゃないか、ズルだろうと考えた人もいたようです。イエスは触られたことにすぐに気づき、誰がさわったのかといわれます。そこで騒ぎがおきます。弟子たちは群集が大勢いるのだからわからないよ、といい、イエスはあたりを見回して捜し続けます。女は恐ろしくなり白状します。イエスは娘よ、元気に暮らせと励ましと祝福を与えて女をさらせます。これを教会はイエスと

の人格的な交わりと伝統的に解釈してきました。この解釈から裏口からは
いっても人格的な交わりをもたなければ意味がないからイエスは女を捜した
のだイエスとの人格的な交わりができるのは教会だけだ、熱心にミサに通い
ましょう、礼拝しましょう、という説教もできます。でも教会の敷居は高い
からカゲからお祈りします、ミサにはいける筋じゃなけど信じていますって
いう人たちもいるはずです。そこいらへんをくみとって最近の教会では女は
こっそりとやってきてこっそりと治してもらったが、イエスはそんな女の事
情をさっしてやさしいことばをかけたのだという解釈もあるようです。いい
傾向です。

ヤイロのほうの事情はどうかというと、長血女の騒動があつてイエスの到着
が遅れています（会堂長ヤイロからしてみれば本音のところ長血女の騒動は迷惑？）そんなと
ころに家の者達がやってきてお嬢さんはなくなつたので先生（イエス）を煩
わすにはおよびませんなどといいだす。生きていれば病人、死んだら死人で
す。死人に医者はいらない、死人にイエスは必要ないというわけです。しか
し、イエスは会堂長をなぐさめ、「ただ信じなさい」といい、群集を追い
やって三人の弟子たちだけを連れて会堂長の家に向かいます。

わたしのなかのいい友達が余命宣告を受けて入院していました。三日をあけ
ずに見舞いにいっていましたが、ある日病室にいくとベッドがきれいになっ
ていました。ナースに事情を聞くと戻られましたといいます。その足で不安
と期待で彼の家に駆けつけると死に装束を着て布団によこたわっている友人
を見つけました。生きていれば入院、死んだら棺おけです。これがいまの現
実です。（ひそやかに、死人の蘇りや手をおいて病氣治しをやっているキリスト教会も
あるようです、けっこう怪しいことだと思いますが全部が全部うそではないでしょう）

「結び」

イエスはタリタ、クムと子どもの手を取り語りかけ少女を蘇生しました。イエスの服にこっそりと後ろから触った娘は病気がいやされイエスに祝福のこ
とばもいただきました。このふたりの女は救われました。

そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神
殿を打ち倒し、三日で建てる者、十字架から降りて自分を救ってみろ。」同じように、祭
司長たちも律法学者たちと一緒に、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人
は救ったのに、自分は救えない。メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるが
いい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをの
のしった。マルコ 15:29-32

イエスのご自身を十字架から救うことはしなかった、ののしられるままにし
ておられました。他人を救ったにもかかわらず自分を救うことをしなかった
のです。なぜでしょう。それはご自身が死んでそのかわりにわたしたちを救
うためでした。イエスは復活において死に打ち勝っています。
